

ハヴレニツキャンフ。水野先生。

この度は、私と娘のために、多くの助言、御指導
ありがとうございました。最後のお電話の際、先生に
「19ヶ月間の支援から、ご卒業おめでとうございませう。」
とおっしゃっていただき、あれから19ヶ月も時がたったのだからと
改めて、思いました。もうそんな時に時が過ぎたのか。
あの苦しい思いが、そんな昔のことか、信じられませんでした。
今では、登校すること、一緒に食事すること、全てが
あたり前の毎日です。

当初、水野先生には、我が「家」
母子家庭、祖父母同居などにより

父性の奸心がよいこと、

母子密着、過干渉を御指摘いただきました。私といたら、娘が他の家庭で受ける教育、愛情と同等のものを受けれるよう、一生懸命働き、娘と向き合ってきたつもりでした。しかし、娘が欲していたのは異なりました。娘の気持ちに共感すること、彼女を1人の人間として、一歩引いて、彼女の経験、習得していく過程を見守ること、上記を水野先生に教えていただきました。先生の御指導の中で、最も辛かったのは、「冷ます奸心」でした。「冷ます」ことで、娘が怒り、ある日はベッドの上で、私の上に乗る(体重は当時、私の2倍)。

私のカビンの中身を、私の頭の上にはら巻く、昼夜逆転。"食"に対する欲の大きさ。もともと私より大きい体格の彼女が、4ヶ月の不登校の間に体重は、90kg近く。彼女もといは自分が嫌だったでしょう。とんてん私へのハッ当たり、甘えがひどくつきました。精神的にも辛かったですが、体的にも辛かったのを覚えています。しかし、無事復学、勉強もかなり厳しい私学のため、かなり不安を抱えての復学でした。そこから彼女の精神的成長には目を見張るものでした。

友人関係でも、自分を抑え、うまく協調出来る

ようについに、友人も  増えました。

自分からダイエットも始め、

体重も
今では 28kgも減り、

他の子と変わらないう体型になり、おしゃべり
するようになった。私の仕事が教育関係と
いうこともあり、これまでは、勉強面もかなり厳しく、
教えてきました。が、これも、現在はまだ1学年ですが、
1年生とか、見たいようにしています。そうすることで、1年生
ですが、自分の興味ある教科など、熱心に勉強
するようになった。何かもが1年生、良い方向へ
向かっています。

1977年前までは、いつもキスキスしていた私と娘が、
笑顔で話し、食事出来、毎朝、娘を見送ることが
出来る幸せは、何にも変えがたいものです。

2月に中学で少年式があり、体育館のモニターに

2年生全員、幼い頃の
写真と共に、親へのメッセージが
スライドショーで 流れました。

娘の私へのメッセージは、

“打=まだ” 反抗期だけど、大好きです。” でした。
その言葉に、不登校に至るまでのキスギスした親子
関係、不登校中の暗闇の中のふたふた、時間、
復学後の様々な葛藤、これが、過去のこととして
受け入れられるきっかけとなりました。もちろん、忘れる
ことは出来ません。日々、学びたいと思っています。
これから中3~高校と娘も様々な壁に
迷う時もありと思いますが、娘を信じ、
娘のいる環境に日々感謝し、

歩んでいきたいと

思います。私は、こうしては、と

ああすればという先読みを止め、肩の力を
抜いて、娘との時間を楽しんでいきたいと
思います。あと何年、一緒に過ごせるか、またどのよう
に過ごせるか、心の不安と大きな期待と共に待ち
望んでいます。

支離滅裂な文章になれたが、最後に、

水野先生を初め、佐藤先生、 先生との出会いは
本当に感謝しております。

これから先生方の活躍、四圍から
応援しております。

